慶大工学部新聞

発行所　慶大工学部新聞会
東京都小金井市前原町794
電話(0423)8—6774
振替東京 69157

工学部25周年記念祭迫る

日吉移転への契機

14日、日吉、15・16日、小金井にて

藤原銀次郎が当工学部の前身である藤原工業大学を創設して、今年の六月一七日創立二十五周年を迎えるが学校学生側共に今後五年間のうちに日吉移転を完了し三十周年記念祭を日吉の学部で行うためのワン・ステップとしてこの記念祭に取り組んで行く方針である。記念祭は一四日、午前九時より日吉公会堂での式典に始まり、午後は日吉競技場で体育祭が行なわれることが決定している。一五、一六両日は場所を小金井に移して陸上競技大会、科学関係の専門家、並びに文化人の講演会、研究室の開放、各クラブの展示発表それにビアパーテーなど多彩な催物が計画されているがまだこの両日については確定の段階に至っていない。いずれにせよこの記念祭を盛り上げようとする意気込みは相当なもので、二十五周年を契機として再び日吉移転問題が浮び上ってくることは間違いない。なお創立記念日にあたる一七日は休校となる。

行事予定

五月三十日（土）	早慶一回戦
五月三十一日（日）	早慶二回戦
六月四日（木）ー十三日（土）	大学院願書受付期間
六月十四日（日）	工学部二十五周年記念式典（於日吉会堂）
六月十五日（月）	記念祭予定。
六月十六日（火）	記念祭予定。
六月十七日（水）	工学部創立記念日
七月六日	夏期休暇始る

期待できる新二年生

塾生と密着した自治会に

自治委員改選なる

委員長に岩田君（A3）

岩田君

遠藤君

新自治委員による三十九年度前期第一回自治委員総会は五月六日（水）午後四時半より十四番教室に於て行なわれた。委員総数四十八、未選出十二、定足数二十四、委任状六であり出席は二十五でありまずまずの出足であった。総会は財務局長の戸河里君より昨年度の財務報告に始まり、三十九年度前期の正副委員長の選出に移り、委員長に岩田忠和君（A三）副委員長には遠藤忠君（I三）が承認された。

五月七日に行なわれた第二回自治委員会総会で執行部も次のように決った。

前期自治会執行部

委員長　岩田　忠和（A三）
副委員長　遠藤　忠（I三）
（以上は第一回総会で決定）
書記部長　八十島信行（E三）
財務〃　二宮　章（M二）
塾内〃　遠藤　忠（I三）
塾外〃　仁宮　尚之（E三）
文厚〃　松本　圭祐（E三）
広報〃　藤田　賢吾（E二）

例年に比べると新年度の各クラス自治委員の改選、それに伴う正副委員長、執行部の選出は一カ月余り早く行なわれ、早くも新規メンバーによる活動が始められ、まず二十五年周年記念祭を成功させるべく活発な動きを見せている。記念祭という好題材が控えていることも一因のようであるが、例年の自治会活動が六月に入ってやっと軌道に乗ったことを考えると今年の自治会にはこの数年間の沈滞ムードを一掃する気力がうかがえる。

ここで注目すべき点は特に今年の新二年生の自治会に対する関心は高く、第一、二回自治委員総会に於ても二年生委員は旧執行部の一員であった正副委員長に対して「自治会の活動は学生と分離しているのではないか。もっと学生と密着して活動して行くべきだ。この意味で広報機関の充実、クラス討論の機会の増加を考えたらどうだ。」「昨年度などは自治会室内で執行部のみで活動していたようであるが、もっと塾生の声というものを良く反映して学生と一体となって活動していくべきだ。」また「学生の自治会に対しての関心度がきわめて低いのではないか。これに対して自治会はどのような対策を考えているのか」等活発な質問をあびせた。

これに対して正副委員長ならびに三、四年委員も決意を新たにした模様であり、また執行部長に二人の新鋭二年生を含めたので、今年の自治会は盛り上ってきたと言えよう。

論説

二十五歳の憂欝

福沢先生が教育の方針として〃有形に於いて数理学、無形に於いて独立心〃の二点を掲げ慶応義塾を創立されてからすでに百余年が過ぎ、又福沢門下の故藤原銀次郎翁が福沢先生の遺志ともみられた。工業大学を創設されて以来今年の六月で丁度二十五年になろうとしている。しかし満二十五歳にしてなお将来の見透しも全くつかぬというのが現状なのだ。

藤原翁は我国工業教育の欠点として学問に偏して実地教育が不十分である事、外国語、特に英語の知識がない事技術者が常識を欠いている事などを指摘し、知識と人格の両面から実際に役に立つ人間を創る事を理想とした。ところで、この藤原翁の建学の精神が福沢先生の謂る実学の精神を踏襲するものであることは云うまでもないが、その全部を代表しているとは云えない。

と云うのは、実学について福沢先生は学問とは唯むづかしき字を知り、解し難き古文を続み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世上に実のなき文学を云うにあらず……と述べ実学の例としては天文、地理、物理、化学等を挙げていて、必ずしも実地教育のみを指摘しているのではないからである。ともあれ藤原翁の教育理念は日本の成長期における大実業家の観点より、西欧よりの遅れをばんかいする為にとられた最上の策であったのだろう。現在の工学部の教育理念は〃社会にすぐには役に立たない人間〃を目標にし、基礎学問に力を入れ、福沢先生の実学の精神をより良く踏襲するものとなっている。又長い目で見れば〃社会に長く役に立つ〃点藤原翁の遺志は今だ生きていると云い得る。

ところで、塾の一翼としての最近の工学部の現状はどうであろうか。工学部創設の目的としての知識人格の点ですぐれている技術者の養成についてはすこぶる理想と相反した状態にあると云い得る。総合大学としての機能からはみ出し、ただでさえ理科偏重になりやすい性質を持っているにもかかわらず、現状では単科大学と何ら変る点は存在しない。塾生であるという誇りは三田祭や早慶戦等と限られた場においてだけにしか与えられない。今にも倒れそうな木造平家の校舎、予備校並みのすしづめ教室、多額の費用を投じても保護設備が悪いためほこりをかぶったままになっている研究設備等、………

そこで総合大学の一員となるため、ここ何年も前から日吉移転を工学部関係者すべての願いとして声を大にして、三田の塾当局に訴えてきました。しかし当局では資金不足を理由に何らの手も打つことさえせぬ状態で、当局の工学部移転に対しては、高村塾長の工学部での演説（昨年三度目の訪問の際）に代表されるが如く全く常軌を逸したものである。即ち、一学生の移転をいそげとの質問に対して、〃君達は移転移転と騒ぐが、君達の先輩だけの力で移転が出来ると思っているのですか、それが出来るならおやりなさい。どうしても三田の先輩の力なくして出来やしませんよ〃と云った内容だったと記憶している。之が塾の最高責任者の言葉であっただけに驚きである。三田当局が工学部をこの様な観点から見ているとしたら我々工学部生はいったい慶応の学生という立場をどこに求めれば良いのだろうか。之はもはや移転以前の問題である。工学部に山積みされた問題がなお解決され得ぬのも一にこの様な現状に依るものであると云っても決して云いすぎではない。

資金面の問題にしても寄附金に待つと云うのが真意らしい。だが不況のため寄附金は思う様に集まらぬから今はどうしようもない。之が当局の云い分なのだ。これでは全くのたなぼたで積極的解決策とはならない。昔ならともかく、私学の社会に対する役割が国立よりも重きをなす現在、国庫補助を要求するのはむしろ当然の権利であり、政府から金をもらえばヒモが付く、という因果の論理はあまりにも公式的である。つまり月謝や入学金をつり上げるのも限度があり、先輩父兄の寄附に強くたよるということにより私学の自治が守れるという考えもやはり公式論的ではなかろうか。校友父兄に依存しても国庫に依存しても手段としては同じである。そこで我々は塾当局に訴えたい。この財政面の困難を打開するのにはやはりこれまでの実績を背景に国庫補助を受けるという道を開拓する事を。

とまれ、現状はおそまつである、塾当局はこの現状を見て見ぬふりをしている。何とか手を打たねばという意欲さえうかがわれない。それを裏がきするかの様に、高村塾長は〃工学部に来るのは恐い〃と云う。はたして、二十五歳にしてなを暗いこの現状はいつになったら解決され、工学部生が真の意味での塾生となれるははたしていつの日であろうか。……

工学部生の声

我々工学部生の大半にとって食堂は工学部における唯一の憩の場である。しかも千数百人の学生に対し席の数は百にも満たない。これでは、いつも満員なのが当然である。食券を買うために行列の尻についてから「えさ」をもらって席に着くまで、20分位かかるのはしばしば。そして最近はいつも同じような材料で同じような味付けの料理である。今のB・Cラン等は去年の今頃のA・Bランと同じで、一般の食堂と比べて決して安いとはいえない。もし近くに他の食堂があればそこに行きたい。我々は生協の職員に協力しているようなものである。塾当局はこのような状態を理解できないだろう。何しろ彼らは三田のりっぱな建物で広々と仕事をしているのだから今年になって食堂管理委員会が二、三回開かれたらしいが、全然問題の解決を見ないのは、このような所に原因があるのではないだろうか。このように、食堂問題は我々学生が一致して、生協・学校側に働きかけて、即急に解決せねばならない問題である。

写真説明　ビラが汚くたれ下り何かを訴えている。学生の顔も歪んでいる。小金井生協食堂にて。

これが小金井生協食堂

今期自治会活動方針

慶大工学部自治会

学生ホール問題

我々の二年越しの運動の結果、ようやく、今年の三月に延べ八十坪程度増築された。しかしながら実際にはこの学生ホールに、部室を持つサークルは限られた数であり、サークル活動に支障をきたしているクラブがまだ非常に多い。また、一般学生がいつでも自由に使えるホールも無い状態である。

現在、学生ホールは、ホール使用団体の中で、文連、体連、独立パート、自治会、生協、共済部から代表者を送って構成されている学生ホール管理委員会が、自主的に管理、運営しているが、学校側では、この学生の自主的な活動を学生の手から奪おうとしている。学生の為の学生ホールを、学生が自主的に運営するのは、当然の理であり、学校のこのような態度に強く反対していく考えである。また、現在の学生ホールを、もっと広く全学生の為のホールとして活用すべきであり、増築の方向で活動したい。

食堂改善問題

物価値上がりが契機となって、小金井の食堂も、昨年来、赤字がひどくなってきた。去年から、この食堂問題で、各地域ごとに構成されている四者協議会（利用者、食堂担当者、教職員、学生部）で八回に渡り、討論されたが、その中で、明確になった事は〃赤字は確かに重要な問題には違いないが我々食堂利用者にとっては、直接的には、現在の食堂は、福利厚生施設面で、余りに貧弱かつ劣悪な状態であるという事であった。現在、四地域（三田、日吉、四谷、小金井）に設置されている、四者協議会の上部機関である食堂管理委員会（各地域の利用者代表と学校側代表で構成）で、小金井の食堂問題を審議する段階に来ている。大学において、食堂は学生生活を送って行く上で必須のものである以上、学校が、食生活の面に援助するのは当然の事だと思う。今後は、四者協議会なり、食堂管理委員会を通して、小金井の食堂を、全面的に援助するように、働きかけていきたい。

創立二五周年に向けて

故藤原銀次郎氏が当工学部の前身である藤原工業大学を設立して以来、本年ようやく、二五周年を迎える。六月十四日には、日吉で記念式典が行なわれるが、我々学生もこれを機会に現在の工学部をより充実したより豊かなものにするため、二五周年記念祭という形で、小金井において、六月十五、十六日両日に、全学的な活動を行いたいと思う。今度の記念祭は、工学部の日吉移転の可能性を充分に秘めていると思う。工学部の施設は、充実しているとは義理にも言えない状態であり、施設を拡充するといっても、小金井一帯は建ぺい率で、あとわずかの建設面積しか持っていない。日吉の一年生は在籍数七〇〇名に近い大勢であり又、来年度の入学者は、戦後のベビーブームの学生が入学する年でもあり大巾な定員増加が考えられる。

このような事態を考慮するともし現状のままでいるとしたら…。教室はスシ詰め、実験器具は足りず昼ともなれば、食堂は、戦場の巷となる事は、充分予想される。このような意味でも、二十五周年記念祭を、ただ漫然と過すのではなく工学部生としての自覚を高める場として、又、将来に向けて、少くとも三十周年記念祭を日吉の工学部新館で行うワンステップとして取りくんでこそ、二十五周年記念として本当に意義あるものとする事ができると思う。

平和の問題、その他

現代のように、熱核兵器が大量に存在する社会では、バランス・オブ・パワーの上に、かろうじて均衡を保っている事は、平和を思考する時非常に危険な側面を持っていると思う。我々は、平和を望み、世界平和を達成する為に積極的に討論し、行動すべきである。即ち、当面の問題として、日本に於て、平和運動の具体化である。原水禁運動に積極的に参加していきたい。又、政治問題にも、ただ横を向くだけでなく、事実認識として、当然、知らねばならない事であり、参否はともかく、一定の活動を行なっていく予定である。

夏休み五日増す

従来慶大の夏期休暇は七月一日より八月三十一日までであったが今年度は七月六日より九月十日までとなり今までより五日長くなり夏休みは合計六五日になったわけである。

「福沢諭吉と近代日本」

小泉先生講演会開かる

福沢諭吉全集完成記念講演会の一環として小金井で、五月十三日（水）午後一時より「福沢諭吉と近代日本」と題して小泉信三先生の講演会が開かれた。会場にあてられた六十一番教室は教職員、学生で超満員となり、入りきれぬ学生のためにはテレビ中継さされた。（関連記事二面）

図書館拡張工事始る

九月に完成

工学部藤原記念図書館の拡張工事が始った。その内容は現在の書庫（二四坪）をほぼ倍の四四坪に拡張する他事務室、閲覧室等を十二坪増設する。現在の所蔵書の増加にともない、スペース不足が生じており、この工事がすめば相当の余裕が見込まれるはずである。学生側から閲覧室に防音装置をつけ騒音を少くするよう要望が出ており、その点も考慮される模様である。

第三回食管会議開かる

五月十六日（土）午後五時半より三田に於て第三回食堂管理委員会が開かれた。工学部からは学校側として国尾学生部支部長、学生代表として自治会の岩田委員長、遠藤副委員長が出席した。席上小金井の生協食堂の問題より協議することに意見が一致したが学校側はあくまで小金井だけを問題にしない全塾的視野から問題の討議を進めて行く意向である。

学ホ委員長交代

五月十九日行なわれた学生ホール管理委員会に於て委員長松本圭祐君（E3）が自治会執行部に入ったため兼任できず、新委員長として岡田茂男君（M2）が選ばれた。

梅沢教授渡欧

応用化学科、梅沢純夫教授はチェコのプラハで行なわれる国際抗生物質会議に出席のため六月四日に渡欧する。会議後、欧米各地の研究所を視察して、七月二十日に帰国の予定。

本多賞授賞式

応用化学科武井武教授の受賞決定は既報の通りであるが、その授賞式が、五月十六日（土）午後零時三十分第一生命ホールに於て行なわれた。

増淵純一郎君

応用化学科四年増淵君は四月二十八日に脳内出血にて死去されました。生前には自工研、重量挙部に籍をおき文連委員長として活躍していました。

自治委員氏名

機械工学科
二年（四名）西岡雅夫　深瀬久彦　岡田茂男　二宮章
三年（四名）片岡真一　永井允　原田昭司
四年（四名）細井寛爽　福島信

電気工学科
二年（三名）藤田賢吾　富永晋　長谷川公則
三年（四名）中田健二　仁宮尚之　松本圭祐　八十島信行
四年（四名）高橋龍夫　大管義之　柴田邦雄　栗原征機

応用化学科
二年（三名）坂下年弘　渡辺光敏　佐藤博
三年（三名）杉田康典　種田繁　平島禎
四年（三名）戸河里修

計測工学科
二年（二名）岩崎徹　森亜士
三年（三名）遠藤忠　黒金泰幸　井野英哉
四年（二名）小林敏雄　士屋満春

管理工学科
二年（三名）広瀬禎彦　松尾俊之　増淵考
三年（三名）岩田忠和　丹沢正治　伊東彦三郎　小柳伸
四年（三名）原島克昌　井田洋一　林壮祐

学ホとなりに近く着工

学生部　独パ等入る

学校当局は四月に増築なった学生ホールの横に平行して建坪約二十四坪の平屋を九月までに建築する模様である。新築部分のルーム配分等は確定の段階に至っていないが、内容はほぼ次のようである。

学生部が移転して約十坪をしめ残りの十四坪の部分に現在食堂の端にある独パ、硬庭ルームが移動して、その空いたルームを食堂とする案である。これに伴って食堂は現在より約十二坪広くなり、混雑は幾分緩和される見込みである。

（**学生部談**）語学、数学の教員室が不足なので現在の学生部をそれにあてる。学生部が本館より離れて学生ホールの隣りに移転することは一長一短あるが、この機会に学生ホール不足ならびに食堂のせまさを幾分でも緩和できたらと思って計画したものである。

雑木林

▼工学部は六月十七日に満二五年を迎え現在、移転問題もからみ重大な転換期に立っていると言える。工学部発展のためにはまず日吉移転が第一条件であると考えて昭和三十四年の二十周年の際にも工学部にこのような気運が現われ、工学部移転問題調査委員会などが出来て学校、卒業生、在校生ともに活発な運動が展開されたが、塾当局は小金井の諸設備はひどく努力されている先生方をはじめ学生には頭が下り、日吉移転を十分考えているが、当財政上の理由でどうすることもできないという態度を見せたので、工学部としても単独ではどうすることもできず、この二、三年間というものは移転問題の表だった運動は何ら見られない。▼しかし工学部としては常時何らかの移転問題に関する専門委員会を設けて塾当局に終始一貫した態度をとって働きかけることが必要ではなかろうか。▼この問題に関して同窓会は余り関心を示していないようだし、学生だってどうせ自分の在学中には移転できっこないとして消極的な態度をとっていることは残念なことである。▼直ちに自分の利益とならなくても、将来の工学部発展のために、この問題に関心をもっていただきたいものである。▼その意味に於ても今度の記念祭は充分に工学部の意志表示を行うことのできる絶好のチャンスなのである「三連休だ。もうけたぞ、旅行に行こうぜ、よしきた」では余りに無責任な自己本位な態度ではなかろうか。

山梨大教授　相川孝作著
電子工学概論
A5二四四頁　価七五〇円　〒90円
本書は電気工学や電子工学を専攻としない機械工学など他学科の学生が、電子工学の基礎的な部門をできるだけ確実に把握することを目標としている。内容は物理学との関連部門から始って近代電子工学および電子現象、電子装置、電子回路等を平易に解説した

和田正信　中野朝安　著
固体電子工学
A5三五六頁　価一〇〇〇円　〒90円
教科書を目的としたもので記述は勉めて平易に、できるだけ定説となっているものを取扱うようにし、具体例を豊富にあげて量子力学の知識がなくても理解できるようにした

K・G・リンハート原著　藪本忠一訳
プラズマ物理
A5二六六頁　価一二〇〇円　〒90円

柳井久義　菅野卓雄　著
半導体電子工学
A5三九二頁　価九一〇円　〒90円

日本原子力学会　臨界実験専門委員会編
原子炉物理実験
A5二四六頁　価一二〇〇円　〒90円

東京文京区駕籠町　コロナ社　振替東京14844

理工科系一般教育
代数・幾何教科書
占部実・光藤富士男編　A5判・価四八〇円
高校数学の教科内容との連絡を密にし、学生の理解に無理のないよう配慮し、また教科課程の数学として相当の程度まで述べている

ベクトル　現代数学へのアプローチ
稲葉三男著　A5判・一八八頁・価四五〇円
本書はベクトルの種々相を個別にとらえたのち、公理的立場から共通な数学的構造を明らかにし、現代数学へのアプローチを試みた

物理学通論　改訂版
奥野博・片山英二・新羅一郎著　価五八〇円
物理学の教科書・参考書として基本的なものの考え方、その論理的なつかみ方を学びとらせるよう、無理なく記述してある好書。

大学一般教養　化学教科書
松浦多聞・山村等編　A5判・価四〇〇円
従来の系統的記述に終始した一律的記述をさけ、なるべく難しい理論を省いて化学の基礎概念を発展的に理解させるよう平易に説く

読本　有機合成
小方芳郎著　A5判・二〇四頁・価五五〇円
最近の有機合成の理論と応用工業まで解説したもので、とくに写真を豊富に入れて理解を助けるとともに易しい会話体でまとめた。

無線工学
松尾優・杉浦寅彦著　A5判・価一、二〇〇円
通信方式、送信機、受信機、空中線、電波伝搬、電波妨害、電波法規の全般を説き、さらに設計、保守等の総合的な理解まで図った

モダンケミストリー
近代化学の興味あるトピックスを通じ、化学の基礎が容易に理解できるよう巧みに解説されている
現在アメリカの百数十の大学で使用されている定評あるシリーズ

酸と塩基
バンダーワーフ著／桐栄・山本訳　B6・価三五〇円
理論的に巧妙に読者を導き、酸と塩基の性質や機能の概念を次第に拡げ、さらに構造と性質の関係まで切り込む

結合と構造
リシュケビッチ著／中原勝儼訳　B6・価三五〇円
構造化学の近代的な考え方を説き、また諸種の化学現象の関係づけ、理解するのに有用な概念的道具を与える。

核化学の基礎
オーバーマン著／石森達二郎訳　B6・価三五〇円
興味深くかつ急速に広がりつゝある核化学の基礎と原理を明らかにし、化学への種々な応用までも説き及んだ。

全10巻　現品先渡し
化学大辞典編集委員会編
完結記念セット販売
若き学徒より全化学関係者必備
すぐに使える七万項目の大宝典
7万項目の選ばれた分野
化学一般・物理学・物理化学・分析化学・実験化学・無機化学・放射化学・地球化学・鉱物学・有機化学・生化学・薬学・医学・農芸化学・工業一般・化学工学・無機工業化学・有機工業化学・冶金学・金属材料学
【各巻】B6判・21字×56行×2段組・平均一〇〇〇頁・クロース装・上製函入
完結特価　現品先渡し分割払　二〇、〇〇〇円
一時払　一八、〇〇〇円
※分割払いの方法については、最寄書店にご相談下さい。
申込期限　7月末日まで
※限定部数につき至急お申込下さい
6月末日　全10巻一括配本

化学大辞典

共立出版株式会社
東京都神田局駿河台三の九・振替東京五七〇三五番

先輩からのアドバイス

百年祭記念事業として計画された福沢諭吉全集が今年の二月完成した。それを記念して塾各地区内で講演会が催される。その初端を切って当工学部は、五月十三日小泉信三先生を迎えて開催した。

全集の監修者でもある先生は、塾長の当時、現在の工学部の前身藤原工業大学の創設（昭和十四年）に尽力をつくしその学長も兼任した。この様に工学部とも縁の深い先生から「福沢諭吉と近代日本」の講演を聞き、あらためて塾祖福沢先生の偉大さを再認識できたことは大きな喜びであった。

講演は久野工学部長の挨拶に続いて約一時間行なわれた。

講演内容

私は二十五年前、工学部の前身である藤原工業大学の学長を務めておりました。その時はしばしば学生諸君と話をする機会がありましたが、今日久しぶりにまた学生諸君にお目にかかることができまして幸せに思います。

さて、私は福沢先生を歴史上の人物「福沢諭吉」として、あくまで客観的に扱って行くつもりであります。

この度「福沢諭吉全集」二一巻が完成しました。量、質とも日本で一、二の全集であると思います

今日は「福沢諭吉と近代日本」という題でお話致しますが、皆さんは福沢についての予備知識が余りないものとしてお話します。

講演中の小泉信三先生

福沢の生きた時代

福沢の生涯六十六年は英国のビクトリア女王の治世とほぼ完全に一致します。この六十数年は英国が帝国主義的に国外、特にアジアに最も努力を伸した時代であり日本では止むを得ず開国し、西洋から文明を取り入れて自らを強くするという政策をとりました。その思想、精神上の指導者はむろん多くおりましたが、その主なる者は福沢でしょう。福沢はこれを自認しており全集の諸言にも書いてあります。

百年程前までは、潮は西より東に流れていたが、今日ではアンチコロニアリズムすなわち反植民地主義とかアジア主義とか言われる一種の巻き返しが起っている。簡単に言えばアジア国民は目ざめたのである。それに重要な役割を果たしたのが日本の勃興、近代化であり、これがアジア諸国に強い刺激を与えたのである。この思想上の立役者となると話は前にもどってくる。

歴史学者アーノルド・トインビーは進んだ文明と遅れた文明が接触する時の反応について説いている。すなわち反撥するジロット党と、取り入れて強くしようとするヘロデアン党がある。ここで福沢は終生一貫してヘロデアンの立場をとったのである。

科学と独立自尊

諸君は「福翁自伝」を読んでいますか。その中に学問、教育の方針について書いてある。西洋にあって東洋に欠けているものに、①精密なる科学、②独立心、をあげている。福沢は終生「合理的実証的な学問の必要と独立自尊」を説いている。国の独立を守るために科学と独立の精神を欠くことはできない。

「学問のすすめ」に「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと言えり。」という言葉があるが、同じ「学問のすすめ」の中に「独立の気力なき者は国を思うこと深切ならず」という言葉があることは割合知られていないが、塾の人は是非この言葉を忘れないでもらいたい。

藤原工大創設の動機

福沢は「福翁自伝」の中で、自分の一生を顧みて深く満足の意を表わしたが、望みありとして三ケ条掲げている。皆さんも覚えていて欲しい。①全国男女の気品を高め、文明国として恥かしくないようにしたい。②宗教を起して人心を柔げたい。③学問の奨励、を掲げている。ここで福沢は学者飼殺しの説を述べている。「学者は放っておけば学問をするものである。だから学者には生活の心配をなくして、大いに金を使わせて学問をやらせてみたい」これは藤原工業大学の創設の動機ともなっていると私は思います。

後になってアメリカにプリンストン大学高級学問研究所なるものができ、当面学問を実用から切り離して、したいことが研究できるようになっている。これは福沢と同じ考え方で設立されたものである今はだいたいある期間招へいして何の負担もなく研究できるようになっている様であるが、私もその方が変化があっていいんじゃないかと思う。福沢先生がおられたらどう思うであろうか。

塾生の使命は

それでは先生は何も心配がなかったかと言うと、そうではない。ある人にやった手紙で二ケ条かかげてる。①むやみに戦争の起ること。②過激な急進論の起ること。先生はこのことのためにも慶応義塾を残しておかねばならないと考えていた。このことは門下生として私が常に念頭においているところである。福沢は何も進歩を嫌ったのではない。秩序ある進歩を願ったのである。

この点について私は今日なお西洋思想に学ぶべき多くのことがあると思う。福沢の教えに耳を傾け科学及び科学的精神の勃興と人民独立の精神の大切なことを思うことの必要は昨今少しも変っていない。

慶応義塾に学ばれて何を思想上の食べものにするかは諸君の随意である。しかし諸君の一番手近にいる福沢を忘れてはいけない。

幸いにもこの度りっぱな全集が出来て、諸君の研究を待っている大急ぎというわけではないが常にこれを心に留められて、我々の学校の創立者はこうであった。この人は日本の歴史にこれだけ貢献した人物であった。この人は又一個の人格者としてこれほど尊ぶべき人であった。ということを学ぶことは、諸君にとってけっして損でないということを先輩の一人として諸君にアドバイスする次第であります。

『生かされなかったチャンス』

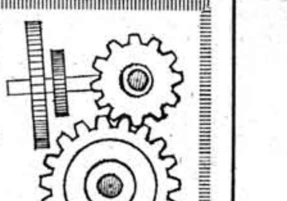
塾生の誇りとする人物である以上に我が国の大御所的存在である小泉先生がはるばる小金井まで講演に来て下さったことを感謝する福沢先生を知る上に講演自体には大きな意義があった。

しかし講演のための来校とはいえもっと有意義に意味あるものにできなかったか。

藤原工大の学長も歴任されたことがあり、現在は塾評議員会の議長の要職にある先生は当然工学部に対し強い関心を持っておられると思う。

講演が終った後、学生を前にして簡単な質問形式でもよい、学校側が先生自身の工学部に対する考え方、又塾当局が現在工学部に対して如何なる考えを持っているかを伺ってみる絶好のチャンスではなかったか。

たとえ塾当局主催の行事だったとはいえ現在の工学部には深刻な問題たとえば移転問題、厚生施設問題等学校側・学生側共々直面している。その意味においても講演のみに終らせずにこの集会を積極的に利用して、誠意ある学校側の態度を示したならば、学生も大きな安心と希望を持ったのではないか。それはやがては積極的な学生の生き方を導びいてゆくだろう。



▼水たまりを越えると人垣であった。それをかきわけ、ようやく行列のシッポについた。ショーケースをのぞく顔、顔、顔。みな半ばあきらめた顔。何がしかの金を払い色のついた札をもらうと、再た行列。そろそろ空腹感が、腹だたしさより情けなさを催す頃、ようやく駅の出札口のような狭い、陰険な穴から食物の配給があった

さて食べる物にはありついたがここでは立って食べる方が他人に席を譲る美徳心を持っていると考える人が多いようだ。又セルフサービスで下膳をしない方が混雑緩和になると心得てる人も多い。

▼これはある未開発国の食堂ではなく、小金井の生協食堂の現状である。我々人間は常に不満を持つ生物である。ところが、うまい事に不満には捌口というものがあるのだが、生協に対する不満には捌口というのがないたゞたゞ組合員の中にも、生協食堂の他に業者食堂を入れよと云うものがいる。

生協“独占企業”論

生協の一種の独占を排して競合させよという訳である。そうなればたまには、業者の食堂へも行ってみるかと思う組合員が当然ないと断言する勇気はとてももてない。もし生協の首脳部が組合員は何もいわないから満足しているらしいと一瞬たりとも思うことがあったら、生協が自ら敵としている独占大資本と官僚主義の犯ちを自ら犯すことである。我々はすでに生協に文句を云うのさえ、バカバカしくなって来ているのである。時々自分が組合員であるという事は生協の奴隷であるという事ではないかと疑いたくなる。余りにもバカにされすぎ怒る気力もなくっなた人が多いようだ。

▼新しい学生ホールが出来てみると何だか生協の占める割合が広いように見えて来たという話をよく聞く。確かに学生ホール管理委員会の度積なった会議や全体会議でも、生協の小金井に於ける役割りの重大性を考え、生協の活動に支障を来たさないスペースを与えるべきであるとさいていたこの広さは論理の上で理性的に正当と判断断されたところが今になって何だか広すぎると感情的に考えるのは何故だろうか。生協が充分な活動をしてくれると思ったのにと後悔し、口措しがっているパートもあるそうだ。このように学生ホールに注がれた昨年の工学生の熱情を裏切った生協の高慢も又、ある国で独占資本と官僚が批判を聞き流すと同じように、自責されないであろう。

▼理髪の料金は、教室へ知らされる事なく理由不明のまゝすでに値上げされた。食堂の値段も、我々の合理化を要求する声に耳栓をして値上げへ努力している。書籍の購入を依頼すれば半月以上も梨の礫である。毎月定期講読する本が四月分もたまったりもする。これでは生協は我々の生活を守るどころか危うくし、粗雑にする。最近は「有難う御座居ます」と云うが別に商売心からでもサービス精神からでもなく、近頃、役所の窓口で聞くのと同じ感じである。

学園生活のかなり重要な部分を占める生協は独占企業であるそして、独占企業にも、たまにはよい点があってもよいと思うのであるがいかゞであろう。

校内対抗試合始まる

五月二十四日よりバレーボール、サッカー、軟式テニス、軟式野球の校内クラス対抗試合が始まった。これら試合の準決勝は六月十五日決勝は十六日の両日、記念祭、体育祭行事の一環として行なわれる

電話三台新設さる

五月十日より自治会と新聞会にそれぞれ電話が新設された。番号は共済部が八ー六七七三、新聞会は八ー六七七四。なお従来の八ー〇七四四は自治会の所有となったまた食堂内に公衆電話も新設された。

各団体委員長

体連委員長	中部	（山岳）
副委員長	謝	（籠球）
文連委員長	関矢	（自工研）
副委員長	牧野	（独研）
独パ委員長	円	（KCBC）
副委員長	中田	（技社研）

生協支部長に小柳君

五月十六日に行なわれた生協定例理事会に於て生協小金井支部長が柴田君（F4）より小柳伸君（A3）に交代した。

企業説明会開かれる

“今年初の試み”

五月十日（日）、五月十七日（日）の二日間、午前十時より午後六時まで広告企業研究社主催の企業説明会が管理工学科内の講義室に於て開催された。この説明会は今年度初めて企画され、就職を間近に控えた四年生を対象とするもので、以前学生に入社の説明会を開きたいと学校に申込んできた会社も数十社にに及び、学生間にも説明会を開いて欲しいとの要望もあったので実現した。第一日の十日は当初予定された約百社のうち来塾した会社は三〇社に満たず、主催者側の不手際に対して批判の声があった。このためか第二回目の十七日は学生の出席者は減り低調な説明会となった。来塾会社は次の通りである。

日本エアブレーキ、東急車輌製造、日立造船、日本サーボ、第二精工舎、日本アイビーエム、日本レミントユニバック、進和貿易、丸万、三菱レイヨン、富士重工業、パイロット万年筆、日本飛行機、安川電機製作所、高千穂交易、沖電気工業、日本冶金工業、東洋レーヨン、電気化学工業、名機製作所、サンウェーブ工業、本田技研工業、石川島播磨重工業、関東自動車工業、三井石油化学工業、荏原製作所、花王石鹸、三菱油化、三井化学工業、横浜ゴム製造、いすず自動車、鐘淵紡績、新日本窒素肥料、不二屋、昭和電線電纜、コパル、三菱商事、大阪金属工業、日本セメント、トヨタ自動車販売、佐々木硝子、日本オイルシール工業、山武ハネウェル計器、三共、プレス工業、リコー、小西六写真工業、日本工芸工業、プリンス自動車工業等。

各科の求人状況

本年度の求人関係の公表は、六月一日以後と言うことで、各科とも内容を示してくれなかったが、今まで知り得た所では、機械工学科が就職の第一志望を提出して十九日の教授会の決定を待っている一般的に重工業関係、特に自動車方面の大会社に集中している様子である。電気工学科では、商事会社がふえ、大学院進学者がのびていない。応用化学科は求人数が例年どうりの出だしであり、初任給においては、一部の会社で高い所もあるが一般には普通であると言える。進路は、化学関係の会社が人気があり、大学院の進学者は、昨年と同様の見込みである。計測工学科、本年度五月十六日現在で求人会社九十四社で、昨年度十一月で七六社に比らべて、多少の増加を示している。業種別に見ると例年通りである。又初任給は平均二万二千円程度で、二万円以下の会社はないそうである。管理工学科では昨年より二、三割増しの求人で、メーカー関係が増加している。管理工学科は卒業生を生みだして今年で四年である。

三田祭実行委員会発足

五月十六日（土）第一回三田祭実行委員会が開かれたが、各科代表の集まりがわるく、委員長、副委員長の選出は二十日に行なわれることになった。なお代表は文連独立パート各々二名づつそれに、各科二名から構成されている。二十日には、前記の選出のほか、統一テーマ、統一パンフレット、会場整備等の割当てを決定する予定である。

各科の今年度の三田祭に対する態度は、工学部統一テーマを設け、昨年度まで各科毎に出していたパンフレットを、工学部統一パンフレットに盛りこんで、工学部としての一冊の豪華なパンフレットを作った方が良いという意見である。この場合、広告取りにして合理的であり、もらった側にしても記念になってよいという傾向からである。

25周年記念祭 行事予定

＝於小金井＝

十五日（月）

○講演会、クラブ発表会
○工学部長挨拶
○実行委員長挨拶
○合唱、落語
○文化人講演会、懇談会
○映画会
○劇
○バンド演奏
○英語会スピーチ
○ブリッヂ
○クラス対抗準決勝

十六日（火）

○科学者講演会、懇談会
○塾長講演「工学部未来像」について。代表質問会
○パネルデスカッション
○ワグネルオーケストラ演奏会
○ビヤパーテー、ファイアーストーム。授賞式。
○クラス対抗決勝
○ラグビー模範試合
○教員対職員ソフトボール大会
○自工研アトラクション等

なお十五、十六両日にわたって各科研究室解放、各クラブ展示など行われる予定。

記念祭本部委員

委員長 岩田（A三、自治会）
副委員長 中部（M三、体連）
財務 小林（C三、自治会）
庶務 牧野（M三、文連）

ハムコンテストで優勝

電気科二年 山下君

全関東大学アマチュア無線連盟の主催による、第七回大学アマチュア無線コンテストがこの三月十九、二十日の両日にわたって行われた。このほど同連盟から入選者が発表された。これによると工学部電気科二年の山下裕一君が、大学VHF（極超短波）部内で他の四十三名を圧倒してみごと優勝した。彼は高校時代からアマチュア無線の二級免許をとりJA1EQSのコールサインで活躍していた。表彰式は十六日行われた。

IAESTE

海外実習実現か

最近発足したIAESTEとは国際学生技術研修協会と称し各国の学生を他国の会社に実習生として送り出し、または受け入れる世界的な交換機関である。また、この機関の性質としては政治色を持たない独立の非政府機関であり、ユネスコ、国際連合経済社会理事会、及び国際労働機構の諮問団体で、現在三三ケ国が正加盟国となっている。日本は今年の一月にスイスで開かれた総会で加盟を申請し、満場一致の賛成で準加盟国として承認されたがこれからのある期間、積極的な活動をした後、正加盟国としてIAESTE活動の国際舞台に現われる事になる。本会の目的は広い意味での学問研究の為、国外での技術体験を望む学生にその機会を与え、世界各国の学生間の国際的な理解と親善を深めることにあり、その手段として、学生を長期休暇中、即ち八ー十二週間、交換するわけであるが地理的条件の悪い日本その他の国の為に、三ー十二ケ月の長期実習の予定と考えている。交換された学生は、各国の会社で、その国の生活水準以上の給料を与えられて働き、今の段階では往復の旅費は各自が負担することになっているが、将来は国内の多数の会社の援助のもとに各自の負担をなくしていくという計画である。

このIAESTEは各国の国内委員会と年一回一月に開かれる総会で主に運営され日本国内委員会においては、文部省ユネスコ国内委員会の全面的支持、また民間からはたくさんの強力な理解者を得て、去る五月十二日に発会し将来は明かるい見通しであるといわれているそれについて慶応工学部内でも委員会を設立して活発な活動を開始しようとしている。本年は日本から六ー七名の学生をドイツに送り、米国、トルコ、オランダインドから受け入れる予定であるが、来年度の交換生募集は十月か十一月から始め、海外の多数の国と交換して規模を大きくする計画である。

生協委員改選進む

生協では自治委員と時期を同じくして、生協委員の改選を進めており、特に二年生の委員選出に重点を置いている。小金井支部では五月二十七日（水）に第一回生協委員会を開き、六月上旬に前期総代会を予定している。総代会を互選する生協委員の構成は各クラス一名文連、体連各々二名。小金井寮、新聞会各々一名、計二十七名であり、組合員を代表して一年間生協を利用する文化、経済的生活を守る目的を持っている。今年度は生協食堂が問題化している折でもありここで今一度生協のあり方について再確認する必要性が十分あるので生協委員の任務は重大である。

学校案 25周年記念式典 （14日）

（於日吉公会堂）

9,30	開式	柳葉事務局長
35	工学部長挨拶	久野工学部長
40	塾長挨拶	高村塾長
10,00	来賓祝辞	未定
05	〃	〃
10	卒業生祝辞	〃
15	学生代表挨拶	〃
20	藤原記念講演	小泉名誉教授

アメリカンフットボール

電気科新主任教授 堀井武夫

一年間私が留学していたアメリカのパデュー大学は、アメリカンフットボールで有名らしい西部に旅行したとき。パデュー大学にいると言ったら、自分はその大学は知らないがフットボールで名前を聞いていると答えられたことがあった。

渡米前に一度も試合を見物したことがなかったので、夏休で学生は殆んど居なくなっている八月に試合日程を書いた布の広告が大通りの上に掲げられても別に気を止めなかった。

しかし、九月の新学期が始まると、何となく試合気分が横溢してくるのが門外漢にも伝わったので第一戦を見物してやろうという気になって友人に相談すると、その切符は一ケ月前に売切れだと笑われた。

結局、残っていたのは、第四第五戦で、最終の第五戦は十一月中旬にあり、悪くすると雪の降る中で、さむさにふるえ乍ら見物することになるかも知れないとおどかされたが、大枚五ドルを投じて買入れた。

副大統領も見物に来るとか噂された第一戦の対ノートルダムは九月中旬、快晴の土曜午後に行なわれた。対戦大学の地元からは、昼頃から自動車や大型バスで陸続と見物人か押寄せる。

パデュー側では、各学年ごとに別の広場に応援用の独得の服装で集まり、隊伍を組んでスタディアムに繰込む。手に手にゴールが成ったとき空に放った風船などを持っている。

学生も観客も席に着いて、試合開始を待ち兼ねていると、ゴールデンガールかブラックガールを先頭にしたバトンガール達これに続いて数百人の楽隊が、音楽を奏しながら行進してスタディアムに繰込み、試合前の奏楽が済むと、国旗掲揚をしていよいよ始まる。

第一戦は、切符が無いので、楽隊の行進について進み、景気を見ながら写真を撮っていたが何だかお祭気分になって一緒に興奮の渦に巻込まれ、全く愉快であったスタディアムは七、八万を呑込んで超満員。ダフ屋も出れば、物売りも店開きをしている。

私の見物した第五戦は、緒戦ほどの大騒ぎではなかったが、最後のホームゲームというので、曇天で風が強い日にも係わらず、毛布などの防寒具を用意した見物人が陸続として詰めかけた。この日は幸いなことに試合開始とともに天気が良くなり暖たかかったが、その後テレビで見た試合は本当に雪が相当降っていた。しかし、満員の観客は雪の中で最後まで見ているのである。

試合前のほか、ハーフタイムの三十分、試合後とバトンガールおよび楽隊のショーが行なわれる。

試合そのものを見物することは勿論だが、こういったショーを楽しむのも一目的であろう。

一点差で迎えた幕切れ寸前、対手校がゴールに殺到したときは全員総立ちとなったが、数呎前で防ぎタイムアップに漕ぎ付けると、テープならざるトイレットペーパが上部から沢山投げられた。広いスタディアムでは、テープは細すぎるそうである

人文字でPを描いたり「行け」と激励するGOを描いたりするのは大学野球の応援と同じ様だが、その字が初め小さく、パッパッと大きく変って行く手際には感心した。

お祭気分で興奮を盛り上げ、若い学生達が青春を謳歌することは学生々活に花を添える意味で大変結構なことである。試合の雰囲気は一寸と慶早戦に似ているなと思った。

ただ、アメリカでは各大学がキャンパス内にスタディアムを持っており、試合場に入る前に色々の手段で興奮を盛り上げられることと、学生が総て寄宿舎居に住していてスタディアムは目と鼻の所にあるため文字通り学生全員が試合を見、一喜一憂を同じくする数時間を持ち有ることは羨やましく思われた。

当社は若いあなたが実力をフルに発揮できる若い会社です。特に人材の開発育成には積極的で、定評があります。当社の設備と技術水準は極めて高く、わが国最大の車体工場としてめざましい躍進を続けています。

採用関係連絡先
本社 人事部第1人事課
愛知県刈谷市昭和町2の1
電話 刈谷21－5311(大代表)

若いブレーンを求む！

トヨタ車体株式会社
■設立 昭和20年 ■資本金 15億円 ■従業員 3,200名
■本社 愛知県刈谷市 ■工場 本社工場・富士松工場

国内の70%……

最新の技術と30年の研究が生みだした品質と性能！

製品
○世界に伸びるNGKスパークプラグ
○時代の先端をいくニューセラミック製品

国内市場占有率70%！
躍進を続ける輸出！
スズカグランプリ全優勝車に装備！

会社概況 創立 昭和11年
資本金 10億5000万円
従業員 2,000名
社員募集 昭和40年3月卒業見込の者
初任給 約22,000円
貴学、担当教授または当社労務課へお申込み下さい。

日本特殊陶業株式會社
名古屋市瑞穂区堀田通1－17 Tel (87) 4551

―優れた技術を支える，
若々しいヴァイタリティー

●中部鋼鈑は世界最大の250トン[illegible]するわが国電気炉製鋼のトップメーカーです。鉄鋼は文化のバロメーターといわれ現代産業の中枢を占めていますが，当社は昭和25年躍進著しい中部工業圏唯一の鋼板メーカーとして発足し，各種鋼板を生産、その優秀な技術と若々しいバイタリティ，近代的な経営によりめざましい伸展をみせ日本有数の鋼板専門メーカーへと発展しました。
●日本の粗鋼生産高は世界第3位にあり，鉄鋼業界の前途はまさに洋々としています。社歴14年の若い当社は将来も技術の開発，経営の合理化につとめ“技術の中部鋼鈑”として飛躍を期しています。
●社員の平均年令26.8才という若い青年会社です。才能ある若人をどしどし抜てきしています。若い旺盛なファイトに充ちた皆さんの入社と活躍に期待します。

資本金 12億3千万円 従業員 1,840名
年間売上高 100億円 本社 名古屋
●応募についての連絡先
名古屋市中川区小碓通5の1 本社組織管理部整員課 電話 代表66－3811・直通66－5647

中部鋼鈑

意欲ある
若人の
入社を期待する

世界最新最大の250トン電気炉

■ペガサス印で知られるモービル石油は世界第3位の売上高を誇るソコニー・モービル・オイルの伝統を受け、名実共に世界の大陸150ヵ国を駆けまわって、国際的な声価をほしいままにしています。
■世界各国のモービルはその国の人達によって運営されるという原則にもとづいて，国際的水準にまで訓練された，世界の諸民族を包括した優秀な社員の協力があります。当社でも，モービル・ファミリーの一員として世界の企業、全人類の文明の発展に寄与しようと志す国際的感覚豊かで前途有為な青年の入社を歓迎します。

逞ましい
ファイト
積極性

モービル石油
入社に関するお問合せは下記にお寄せ下さい
横浜市西区北幸町1の6（相鉄ビル）
電話 横浜 (44)1261(大代表) 人事課 伊東・辻